

ハスモンヨトウ

チョウ目ヤガ科に属するヨトウムシの一種で、アジアを中心に世界に広く生息しています。

名前の由来は前翅に斜めに交差して走る数条の淡褐色の縞模様がある事から、漢字では「斜紋夜盗^{はすもんよとう}」と表記されます。「斜」を訓読みし「はす」と読むので「蓮紋」と誤解されやすいかと思えます。

中国や台湾における本虫の名も「斜紋夜盗蟲、斜紋夜盗蛾」です。

日本における発生は年4～5回で、初発は4～6月頃よりフィリピンや中国南部より飛来した個体か、国内で越冬した個体によるものと言われています。

各発育期間は夏季(25℃)において卵は4日、幼虫は19日、蛹は14日、羽化後～産卵までの期間は2日程度で1世代は約39日で経過します。秋になるにつれ発育期間は長くなり、暖地系害虫で休眠性もないため寒さに弱く、露地での越冬は困難なためハウスへの侵入に注意が必要です。

1. 特徴

(1) 成虫

体長約15～20mm、翅開張は約35～42mmです。雌は葉裏に200～1000粒の卵を塊状に産み付け、黄褐色の鱗毛で薄く覆っていきます。

(2) 幼虫

極めて広食性で、野菜類、いも類、豆類、花き類、果樹、雑草と多種にわたり、アブラナ科野菜、レタス、ホウレンソウ、ナス、レンコン、ダイズ、サツマイモ、サトイモ、スイートコーンの子実等で被害が目立ちます。体色は灰緑暗色、暗褐色など変異があり中齡以降に頭部後方に黒斑が2つ認められ、これらが本種の特徴です。

若齡幼虫(2、3齡期、体長1.5cm程)は集団ですごし、葉の表皮を残して白色のカスリ状に食害します。食べ尽すと隣の葉に移動しますが、個体数が多いにもかかわらず食害量が少ないので発生を見逃してしまう場合があります。

中齡以降は集団から分散し、摂食量が急激に増えて網目のような穴を空けながら暴食し、葉脈、葉柄を残して丸坊主にしてしまう事もよくあります。

終齡幼虫(6齡)は体長4cm程になり、土中で蛹になります。またヨトウムシほど明瞭ではありませんが、日中は日陰や地際部に潜み、主に夜に活動する習性があります。

2. 発生状況

病害虫防除室では、かほく市内日角と湖北に専用のフェロモントラップを設置し、発生調査をしています。

調査開始から8月前半までの誘殺数は内日角で平年の1.2倍、前年の3.7倍程で、今年は過去10年間で3番目に多く誘殺されています。

(図-1)



成虫(拡大)

フェロモントラップ誘殺状況(成虫)

本種の発生量は年次変動が大きく、春より降水量が少なく、梅雨明けが早く猛暑の年の秋に多発する傾向があります。今後も気温が高い予報ですので、多発が懸念されます。

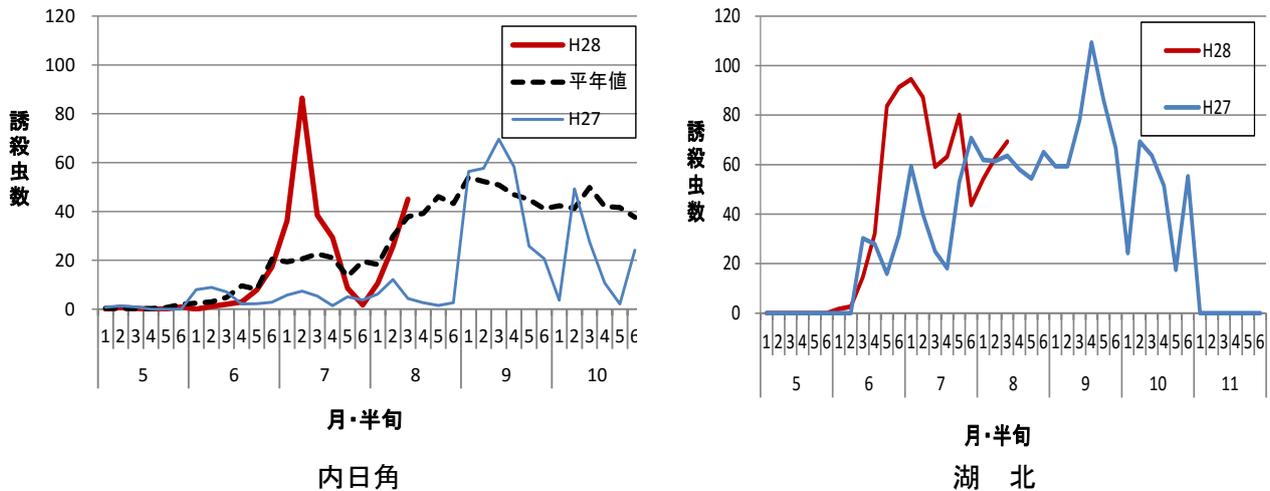


図-1 かほく市におけるハスモンヨトウ誘殺消長（フェロモントラップ）

3. 防除対策

(1) 耕種的防除法

- ①卵塊や若齢幼虫の集団が見られる葉は発見したら、除去します。(写真1)
- ②ハウスでは開口部にネットを張ると成虫の侵入・産卵防止に有効です。なお、ネットに産み付けられた卵塊より、孵化幼虫が侵入する場合がありますので注意が必要です。

(2) 薬剤防除法

- ①早期発見に努め、若齢期(写真2)をねらって防除します。
- ②中齢幼虫以降(写真3)は防除効果が劣るので、手遅れにならないように防除します。
- ③幼虫は葉裏に多いので、薬液が葉裏に十分かかるように噴口の角度に留意して散布します。
- ④本種は薬剤抵抗性が付きやすく、ある種の薬剤に強くなってしまえば同じ系統の薬剤の効果は低下するので、異なる系統の薬剤をローテーションして散布します。



写真1 (卵塊、孵化直後)



写真2 (若齢幼虫)



写真3 (老齢幼虫)